

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語122人 算数122人 理科122人

第5学年 国語124人 算数124人 理科124人

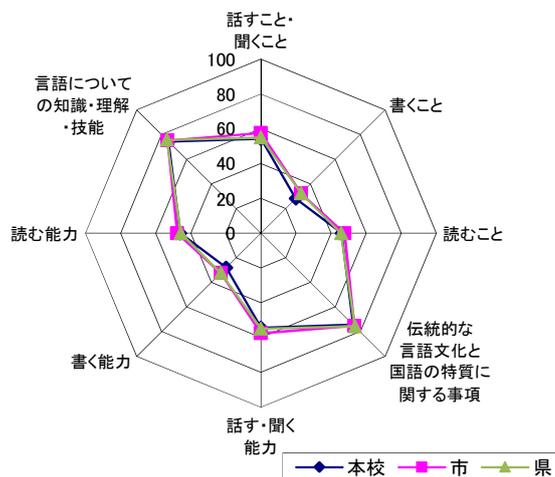
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	54.3	57.5	54.9
	書くこと	28.1	32.3	32.3
	読むこと	46.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	54.3	57.5	54.9
	書く能力	28.1	32.3	32.3
	読む能力	46.1	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	74.5	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

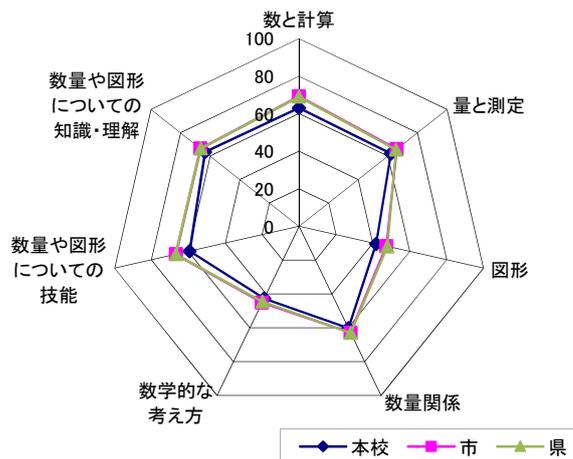
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○設問が、話し合いの進め方に関するものであるが、「発言するときは理由を挙げながら筋道を立てて話す」ということに関しては市のポイントとほぼ同じで理解できている。</p> <p>●領域の平均正答率は54.3%で、市平均より3.2ポイント低い。中でも「司会者の役割を理解して進行する」に関しては課題がある。</p>	<p>・話し合いの進め方に関しては、3・4学年で「司会」や「提案」などの役割を学習するので、今後も継続的に指導を行い、実践を通して活用できるようにさせたい。</p> <p>・昨年度から自分の考えをもって話し合うことを、学校全体で取り上げ、重点的に指導しているところである。今後も国語科で身に付けた技能を他教科につなげられるよう、話し合い活動を意図的に取り入れ、表現力の育成を図りたい。</p>
書くこと	<p>●領域の平均正答率は28.1%で、市平均より4.2ポイント低い。資料とメモを基に報告レポートを完成させる設問であるが、資料とメモの2つから記述すべきことを抜き出すことと、前後の文章に合う文を考えることができないと正解できないため、途中であきらめてしまい無答だった児童もいた。文末表現も採点基準になるが「…からです。」の「から」をつけなかったり、句点を書かなかったりして不正解となっている。</p>	<p>・2つの資料を見比べて報告レポートを完成するというように目的に応じて書く力を身に付けるため、国語の授業はもちろん、各教科や朝の学習の時間等で継続的に書く機会を設けていく。</p> <p>・文と文のつながりや、文末表現に気を付けて書けるように基本的なことを指導する。また、書いた文章を自分で読み返す習慣を身に付けていく。</p>
読むこと	<p>○「登場人物の気持ちを想像して読む」は、市平均より2.7ポイント高かった。</p> <p>●領域の平均正答率は46.1%で、市平均より1.6ポイント低い。特に、説明文の「段落相互の関係を捉えて読む」は、市平均より5.5ポイント低く課題である。</p>	<p>・段落相互の関係を捉えることに課題があるため、接続語に気を付けたり、段落に見出しを付けたりして段落と段落がどのように結びついているか考えさせる学習を繰り返す行う。</p> <p>・朝の読書活動では、進んで本を準備し読書する習慣がついているので今後も継続させていく。</p> <p>・初めて読む問題文を短時間で読み取る力をつけるため、学習プリントを活用していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み書きに関しては、市平均より上回っている。</p> <p>●領域の平均正答率は74.5%で、市平均より0.8ポイント低い。特に、主語と述語を選択する問題や国語辞典を使って調べる方法に関しては課題がある。</p> <p>●ローマ字に関しても、市の平均より3.4ポイント低く、定着していない。</p>	<p>・主語と述語の意味や関係を復習すると共に、学習プリント等で繰り返し練習させる。</p> <p>・国語辞典の使い方を復習し、正しく理解させる。また、日頃から辞書を引く習慣を付かせたい。</p> <p>・ローマ字の学習では、拗音や長音の表し方に課題があるので、正しく理解させ、繰り返し練習させて定着を図りたい。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.1	69.2	69.1
	量と測定	62.2	66.1	65.6
	図形	41.9	47.4	48.0
	数量関係	60.2	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	42.6	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	59.3	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	63.6	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

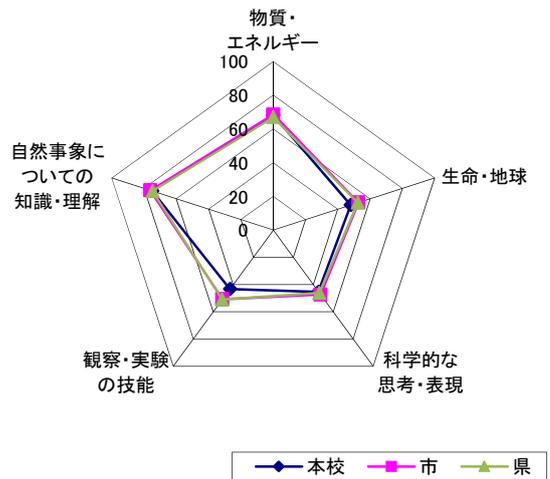
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数直線を読み取る設問の正答率は83.5%と、県の平均から1%下がるものの、市の平均から0.5%上回った。</p> <p>●領域の平均正答率は63.1%と県と市の平均を約6%下回っている。</p> <p>●単純な計算問題でのミスが目立つので、計算方法の定着が不十分なことと正確に計算する力が身に付いていないことが課題であると考えられる。</p>	<p>・単純な計算問題のミスを減らすため、位をそろえて丁寧に書くことの大切さを再確認するとともに、ドリル等を繰り返し使用することにより、基礎的な学習の定着を図る。特に、除法の定着が不十分なので、より力を入れて取り組んでいく。</p>
量と測定	<p>○時刻と時間の設問の正答率は36.4%と県の平均を0.4%、やや上回った。</p> <p>●領域の平均正答率は62.2%と県の平均を3%、市の平均を4%下回っている。</p> <p>●はかりを読み取る設問の正答率が低かったことから、アナログのはかりを読む力や経験が不足していると考えられる。</p>	<p>・デジタル表示のものが増え、時計やはかりなどをアナログで読む経験が不足しているように感じる。目盛りの読み方を再確認するとともに、アナログで読む機会を意図的に設定していく。</p>
図形	<p>○三角形の名前とその根拠を答える設問の正答率は6.6%と県の平均を2%、市の平均を1%上回っている。</p> <p>●領域の平均正答率は41.9%と県の平均を6%、市の平均を5%下回っている。</p> <p>●1cm間隔のドット上に、正三角形を作図する設問では、県の平均を15%、市の平均を12%下回っている。</p>	<p>・コンパスを用いて作図する力が全体的に不足していることから、全体指導でやり方を教えるだけでなく、個別にも丁寧に指導し定着を図る。また、ドットを利用せずにかいたり、作図の跡を残さなかったりするなど、問題の意図を正しく読み取れていない傾向もみられるので、問題の読み取り方も指導していく。</p>
数量関係	<p>○棒グラフが表している内容や、□を用いた式の場面を選択する設問は、県や市の平均をやや上回っている。</p> <p>●棒グラフの1目盛りの大きさを読み取る設問や、未知の数量を□として図に表す設問は、県や市の平均を10%前後下回る。</p> <p>●領域の平均正答率は60.2%と県の平均を3%、市の平均を約3%下回っている。</p>	<p>・棒グラフが何を表しているのかや、□の式がどんな場面を表しているのかは理解しているが、棒グラフの読み取り方や、未知の数を□として図に表すなどの仕組みの部分の理解が不十分だと思われる。図やグラフの仕組みを丁寧に指導するとともに、それを用いて自分の考えを説明するような場面も意図的に設定していく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.2	68.6	66.9
	生命・地球	48.0	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	45.4	47.4	46.2
	観察・実験の技能	43.3	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	75.0	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○領域の平均正答率は68.2%で、県平均より1.3%高く、市平均より0.4%低い。</p> <p>○磁石を使ったおもちゃを回り続けさせる方法を推測する設問では、県平均より12%以上高く、市平均より9%以上高い正答率であり、実験を通して理解が定着していると考えられる。</p> <p>○虫眼鏡で集光した所の大きさと明るさの変化の設問では、県平均より約8%高く、市平均より約7%高い正答率であり、実験やその考察を通して光とレンズの関係についての理解を深められたと考えられる。</p> <p>●豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する設問では、県平均より約4%低く、市平均を約5%下回る正答率となり、既存の知識を活用して思考することに課題がみられる。</p>	<p>・既存の知識を活用して思考する力を高めるために、学習問題づくりや解決の際、既存の知識を生かせる場面を教師が意図的に設定したり、実験結果から得られた性質や働きを生かしたもののづくりを行ったりできるようにする。</p> <p>・学習したことが日常生活で生かされていることを理解できるように、学んだ性質や規則性等と身の回りの生活との関連について考える活動を行うようにする。</p>
生命・地球	<p>○領域の平均正答率は48.0%で、県平均より4.4%低く、市平均より4.8%低い。</p> <p>○昆虫の食べ物に関する設問では、県平均より約8%高く、市平均より約5%高い正答率であり、学級で昆虫を育てたり観察したりする活動を通して、いろいろな昆虫が食べるものについて理解が深まっていると考えられる。</p> <p>○身近な植物の成長する順序に関する設問では、県平均及び市平均を若干上回る正答率であり、一人一人が花を育てる活動を設定したことにより、植物の成長について理解が定着してきていると考えられる。</p> <p>●方位磁針の操作方法の設問では、県平均及び市平均より約8%低い正答率であり、方位磁針のしくみの理解に課題がみられる。</p> <p>●温度計の操作方法の設問では、県平均より約27%低く、市平均より約22%低い正答率であり、温度計の適切な使い方の理解に課題がみられる。</p>	<p>・方位磁針や温度計など観察に使用する器具の適切な操作方法の理解を高めるために、操作方法をペアやグループで確認し合う場を設けたり、パフォーマンステストを実施したりする。</p> <p>・身の回りの動植物の生態についてさらに理解を深められるよう、継続して学級や教材園で動植物を育てたり、観察日記を書いたりする機会を適宜設定する。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の復習をしている」という質問に対し、肯定的な回答が宇都宮市の回答より12.1%も高くなっている。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に対しても、宇都宮市の肯定的な回答を大きく上回っている。学習に対する真剣さ、まじめに取り組もうとする態度が身に付いていることがわかる。

○「算数・数学の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」という質問では、宇都宮市の肯定的な回答を5.2%も上回っている。理科に関しても3.7%上回っている。学習したことを生活に活かそうという意欲が表れている。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」や「家の人と将来について話す」、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」という質問では、宇都宮市の肯定的な回答を上回っており、家庭での受け皿がしっかり整っていることがわかる。

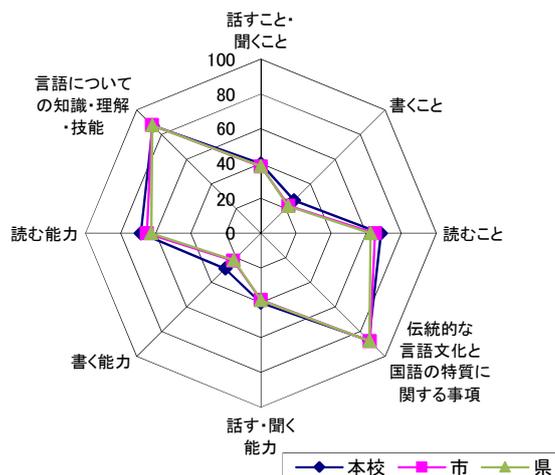
●問題を解く時間について、3教科とも十分ではなかったようだ。特に算数では、宇都宮市の回答より15.2%も低く、57.0%しか肯定的な回答を得られなかった。国語は62.8%だが、宇都宮市の回答より6.9%低い。理科は51.2%で、10.2%低い。テスト問題に対する時間配分について、自分で考えさせる必要がある。また、やり方や問題の意味について十分に理解されていなかったため、自信をもって取り組みなかったようなので、今後も随時、復習問題に取り組みさせていき、自信をつけさせていきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力で解決しようとしている」という質問に対し、肯定的な回答は73.6%であった。宇都宮市の回答より8.5%低かった。自分で正しく判断し活動していく能力を育てるために、調べ学習を奨励したり、行事や学級活動等での活躍の場を設定したりし、生きる力、課題解決の力を向上させていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	39.9	38.3	38.5
	書くこと	26.7	22.3	21.9
	読むこと	68.4	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.2	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	39.9	38.3	38.5
	書く能力	28.7	22.3	21.9
	読む能力	68.4	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	87.2	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

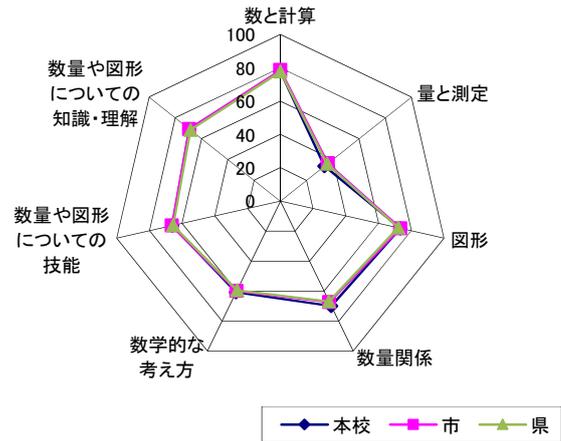
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は39.9%で、県平均より1.4ポイント、市平均より1.6ポイント高い。</p> <p>○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く設問の正答率は県や市より高く、ほぼ定着していると言える。</p> <p>●考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す設問では、必要な内容が不十分な解答が目立った。根拠を明確にしながら話すことについて課題が見られる。</p>	<p>・昨年度から自分の考えをもって話し合うことを、学校課題でも取り上げ、重点的に指導しているところである。今後も国語科で身に付けた技能を他教科につなげられるよう、話し合い活動を意図的に取り入れ、表現力の育成と定着を図っていく。</p> <p>・話し合いの学習や特別活動での話し合いなどの場面で、自分の意見や考えを支える根拠や理由を明確にしながら話す経験を積み重ね、理解を深めていく。</p>
書くこと	<p>○領域の平均正答率は26.7%で、県平均より4.8ポイント、市平均より4.4ポイント高い。</p> <p>○必要な情報を読み取り、見出しを選択する設問やメモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く設問では県や市の平均を大きく上回り、概ね定着していると言える。</p> <p>●メモの内容に新しい情報を加える設問では、県や市の平均をわずかながら上回っているが、無回答率が他の設問より高かった。</p>	<p>・文章を書くことへの抵抗感を少なくするためにも、各教科等の学習で、自分の考えや意見を理由を添えて書く活動を意図的に設定する。その際、条件に合わせて書く活動や、段落構成を指定して書かせる機会をもち、力の定着を図る。</p> <p>・「ミニ作文」の時間や新聞を活用して記事の要旨を捉え、自分の意見を書くという活動の積み重ねにより、書く力を伸ばしていく。</p>
読むこと	<p>○領域の平均正答率は68.4%で、県平均より5.9ポイント、市平均より3.4ポイント高い。</p> <p>○目的に応じて中心となる語を捉えて読む設問や叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む設問の正答率は県や市の平均よりも高い。説明的な文章や文学的な文章を読む力が概ね定着していると言える。</p>	<p>・説明的な文章の読解においては、中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして内容を整理させる。</p> <p>・文学的な文章では、登場人物の気持ちや場面の様子の読み取りの際に、言葉や叙述に根拠を求めるよう意識させた指導を行い、読解力の伸長を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○領域の平均正答率は87.2%で、県平均より0.3ポイント、市平均より0.6ポイント低い。</p> <p>○全学年の配当漢字を読む設問には高い正答率を示しており、漢字を正しく読む力が十分定着していると言える。</p> <p>●漢字を書く設問の正答率は、県や市の平均を下回っており、漢字を正しく書く力の定着に課題がある。</p>	<p>・前学年までの漢字が定着していないので、既習学年の漢字の復習を定期的実施する。また、文章を書く際に、既習漢字は必ず使うことを習慣付けるようにしていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.0	78.6	77.7
	量と測定	33.6	36.3	35.7
	図形	73.4	73.3	72.1
	数量関係	69.9	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	60.8	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	66.1	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	69.4	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

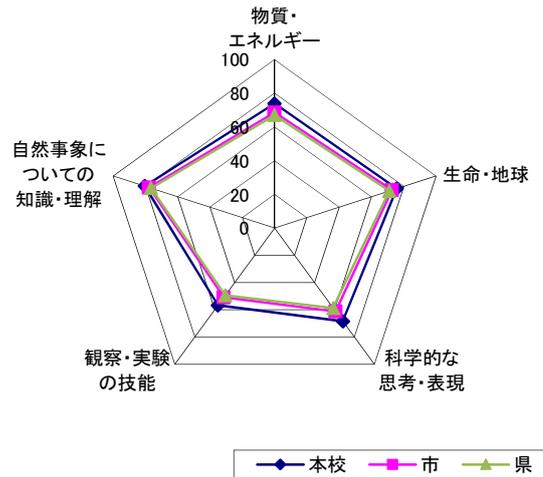
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の平均正答率は78.0%で、県平均より0.3ポイント上回っており、市平均より0.6ポイント下回っている。</p> <p>○小数と整数の中から1番大きい数を選ぶ設問では、校内正答率が70.5%で、県平均よりも4.8ポイント、市平均よりも4.7ポイント上回っている。</p> <p>●3位数×2位数=5位数の計算では、校内正答率は54.9%で、県・市の平均より12.1ポイント下回っている。かけ算の仕組みの理解に課題があると考えられる。</p>	<p>・既習の2位数×2位数の計算の仕方を確認し、ノートのマスをういて正しい位取りを意識させながら反復練習し定着を図るようにする。</p>
量と測定	<p>○図をもとに180度より大きい角度の求め方を説明する設問では、校内正答率が26.2%で、県平均より1.6ポイント、市平均より1.2ポイント上回っている。</p> <p>●領域の平均正答率は33.6%で、県平均より2.1ポイント、市平均より2.7ポイント下回っている。</p> <p>●式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する設問では、校内正答率が27.0%で、県平均より6ポイント、市平均より4.8ポイント下回っている。式を言語化することに課題があると考えられる。</p>	<p>・複合図形についての理解が不十分であるので、複合図形を分けたり、それぞれの辺の長さを考えたりして、様々な型の問題に慣れさせるなど指導を工夫していく。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は73.4%で、県平均より1.3ポイント、市平均より0.1ポイント上回っている。</p> <p>○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ設問では、校内正答率が92.6%で、県平均よりも7.1ポイント、市平均よりも5.8ポイント上回っている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかくて平行四辺形を完成させる設問では、校内正答率が54.1%で、県平均より4.6ポイント、市平均より5.7ポイント下回っている。基準線を使って作図することに課題があると考えられる。</p>	<p>・それぞれの図形が持つ性質をもう一度確認し、特徴を証明したり作図したりできるようにする。</p> <p>・立体物を利用し、実際に展開させることで、知識の定着を図るようにする。</p>
数量関係	<p>○領域の平均正答率は69.9%で、県平均より3ポイント、市平均より2.5ポイント上回っている。</p> <p>○2次元表の欄にあてはまる数を求める設問では、校内正答率が86.1%で、県平均より7.7ポイント、市平均より5.9ポイント上回っている。</p> <p>●2つのグラフについて正しくない説明を選ぶ設問では、校内正答率が69.4%で、市平均より0.9%下回っている。グラフの読み取りの正確さに課題があると考えられる。</p>	<p>・他教科の学習でもグラフの読み取りを丁寧にし、理由を文章で説明できるよう学習し、算数にも生かして使えるようにする。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.9	68.6	67.0
	生命・地球	75.6	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	68.4	61.2	58.8
	観察・実験の技能	56.8	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	80.4	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域の平均正答率は、73.9%で、県平均より6.9ポイント、市平均より5.3ポイント高い。</p> <p>○「空気と水の性質」についての設問では、市・県の正答率より平均5.8ポイント上回っている。空気と水の性質を正しく捉えて思考する問題の正答率も高いことから、学習内容が定着していると言える。</p> <p>○「金属、水、空気と温度」の設問では、市・県の正答率より平均7.0ポイント上回っている。しかし、予想から結果を見通すような問いでは正答率が4.5ポイント低い。</p> <p>○「電気の働き」の設問では、市・県の正答率より平均5.9ポイント上回っている。しかし、光電池の働きや光の強さと結果の関係を問うような設問では正答率が6.5ポイント低い。</p> <p>●「物と重さ」の設問では、市・県の正答率より1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・全体的に、基礎的な部分は定着しているが、それを応用して思考したり、問題文から内容を適切に読み取ったり、現象を的確な言葉で表現したりする部分に弱いことが分かる。そこで下記の部分を特に重点的に指導していきたい。</p> <p>・各単元を通して、学習内容を日常生活に結びつけながら学習を進めていくことを重視していく。</p> <p>・実験を伴う学習等では特に、予想・実験・結果・考察の過程を、科学的なものの見方を高められるようなはたらきかけをすると共に、記録を文章化する機会を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>○領域の平均正答率は、75.6%で、県平均より4.5ポイント、市平均より2.9ポイント高い。</p> <p>○「天気の様子」の設問では、市・県の正答率より平均6.4ポイント高く、天気と気温の関係をグラフから読み取るような問題で特に正答率が高かった。</p> <p>○「太陽と地面の様子」の設問では、市・県の正答率より6.8ポイント高い。</p> <p>○「人の体のつくりと運動」の設問では、市・県の正答率より平均5.2ポイント高く、筋肉や関節の動きといった基礎的な内容が定着していることが分かる。</p> <p>○「季節と生物」の設問では、市・県の正答率より平均5.0ポイント高く、特に秋のカマキリの様子といった身の回りの自然への理解が定着していると言える。</p> <p>●「月と星」の問題の正答率は低く、市・県の正答率を1.1ポイント下回っている。</p>	<p>・自然環境豊かな地域性を生かして身の回りの自然に目を向け、自然事象への興味関心を高めていく。</p> <p>・「月と星」の学習では、季節ごとに折に触れて月や星の観察の機会を話題に挙げたり、情報機器を活用したりしてなかなか見ることができない事象に触れる機会を増やしていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対する肯定的な回答は86.9%で、市の平均より9.2ポイント高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」や「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問に対しても、いずれも市の平均を上回っており、主体的に話し合い活動に取り組んでいることがわかる。今後も対話を取り入れた話し合い活動を展開し、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」という質問に対する肯定的な回答は、86%で市の平均より8.3ポイント上回っている。国語科に限らず、継続して朝の学習の「ミニ作文」や他教科においても書く活動を充実させ、「書く」と「話す」を関連させた学習活動を展開していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」や「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問に対して、いずれも市の平均を上回っている。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問では、93.4%の児童が肯定的回答をしており、先生にほめられたり、クラスの仲間に認められたりすることで、安心感や自信をもって学習に取り組んでいることがわかる。

●「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問に対して、肯定的回答が64.8%で、市の平均を8.5ポイント下回っている。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」という質問に対しては、肯定的回答が市の平均とほぼ等しい。テレビやインターネットから情報は得ているが、地域や社会のできごとを自分のこととして捉えるところまでには至っていないことがわかる。社会科の授業を中心として、児童の興味・関心が高く、問題意識を喚起できるような身近な素材を提示し、将来、社会に進んで参画していく姿勢の素地を養っていきたい。

●「家で、学校の授業の予習をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」という3つの質問では、県と市の平均を下回っている。特に、「テストで間違えた問題」に関しては10ポイント以上も低い。一方、「家で、学校の宿題をしている」という質問には、99.2%の児童が肯定的回答をしており、非常に高い。このことから、与えられた課題に対しては一生懸命取り組んでいるが、進んで予習や復習、テストの見直しまでには取りかかれていないことがわかる。今後は、自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、参考になる例を紹介したりして、家庭での学習を自主的に進めることができるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えをもって話し合う	・自分の考えをもって、自信をもって話し合いに参加できるように、話し合う前に自分の考えを書いて整理する。	・4年生は「理由を挙げながら話す」が市の平均よりやや高いが、「司会者の役割の理解」に課題が残った。 ・5年生は「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」は平均より高かったが、「根拠を明確にしながらか話す」に課題が残った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・条件に応じて書く	・目的に応じたり、条件に合わせて書いたりして書く力を付ける。	・まず、書くことへの抵抗感を少なくするため、国語の授業はもちろん、各教科で自分の考えを書く活動を増やす。また、朝の学習等で「ミニ作文」の取り組みを継続し、目的に応じて書いたり、条件を付けて書いたりする活動を積み重ねる。友達と読み合うことで認め合わせたい。